

令和 7 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (5) 地域への文化発信の拠点となる取り組み

申請組織 An die Musik 実行委員会 (教育学部)

申請組織長 役職名 学部長 氏名 磯部錦司

統括責任者 役職名 教授 氏名 小杉裕子

課題名 卒業生と教員によるコンサート ～音楽に寄せて～

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	小杉 裕子	教育学部 教授	準備、運営、在学生の会場スタッフ指導、ピアノ演奏
		渡邊 康	教育学部 准教授	準備、運営、作品発表
		筒井 紀貴	教育学部 講師	準備、運営、ピアノ演奏
		池田 京子	教育学部 特命教授	ソプラノ演奏

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

平成 21 年第 1 回椋山女学園大学教育学部室内楽演奏会「連弾からアンサンブルへ」を開催した。以来、毎年演奏会を行い、第 3 回目より教員のほかに第 1 期卒業生が参加する「卒業生と教員によるコンサート」として開催している。卒業生が教師という職業をとおして次世代に対する音楽教育を継続しながらも、自己研鑽の機会を提供し音楽発信力を支援する目的で事業を開始した。今回は 16 回目となり、第 3 期から 15 期までの卒業生と在学生在が演奏に参加した。

児童生徒に音楽を愛する気持ちを育むことは、違いを超えて共に生きる協調性を育むことにつながる。そのため教員は高い技能と音楽性が必要であるが、働きながら技能と音楽性を維持するには、演奏会出演という目標のあることが望ましい。また、在学生在が卒業生や教員の演奏を聴き、憧れや尊敬の気持ちを抱くことができれば、学習意欲の向上や、音楽教員への道を志すきっかけ作りにもなり得るところに、卒業生と教員が同じ舞台に立って演奏発表を行う意義があると考えます。

2. 事業方法 (特色・独創性) 等 (300 字程度で記述)

卒業生、在学生在が教員とともに演奏し、技能と表現の幅を越えてひとつの演奏会を作り上げることに特色がある。大学のカリキュラムは 4 年間で終了する。本学では実技面などに自信がない学生に対しても、少数教育を生かしそれぞれの独自性を伸ばしているが、従来の大学教育は、卒業生への支援、技能の維持についての関心が薄いのではないかと考える。本活動は、大学教員の演奏技能の向上のみならず、卒業後の演奏技能及び音楽性の向上を意図している点で画期的な意味を持つ。児童生徒が教員を志望する動機は、自分が指導を受けた教員の影響が非常に大きい。卒業生の発表の場は、勤務先の生徒、父兄など社会的な広がり生まれ、また同窓生たちの連携の場となる。さらに在学生在も卒業生や教員と共に舞台に立つことにより、キャンパスの外に一步踏み出し、社会の中で生きた音楽を体験する場について真剣に考えるきっかけとすることも企図している。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

●2025年12月6日(土)名古屋市中区伏見 電気文化会館ザ・コンサートホールにて午後2時開演、午後3時50分終演

●椛山女学園大学教育学部 卒業生と教員によるコンサート ~An die Musik~ 音楽に寄せて

●入場者数 200名、学園関係者10名、在学生40名(運営スタッフ学生を除く)

●第1部

作品発表 渡辺康(教育学部准教授)・卒業生(第3期生)

卒業生5名(第6、11期生)・在学生1名・小杉裕子(教育学部教授)・賛助1名による、ヴァイオリン独奏、ピアノ独奏、フルート2重奏

●第2部

卒業生4名(12、15期生)によるソプラノ独唱

池田京子教授退任記念演奏～最終講義にかえて～

ソプラノ独唱 池田京子(教育学部・特命教授)・筒井紀貴(教育学部・講師)

直前に体調不良による出演者変更が生じたが、当初計画のプログラム通りの演奏会が実施できた。今回は、前回来場者からいただいた、卒業生と教員との共演を望む声を実現することができた。渡辺准教授による卒業生との作品発表、卒業生と小杉教授によるヴァイオリンソナタの共演である。また、外部賛助を得て卒業生と在学生によるフルート二重奏が演奏された。

出演した卒業生は、教職に就いている者に加え、プロの演奏家として活躍している者もあり、それぞれの立場で音楽活動を継続する意欲に溢れた演奏は、音楽コース卒業生のレベルの高さを示した。池田京子教授退任記念演奏は、熟練された優雅な演奏で聴衆を魅了した。

またスタッフとして演奏会に携わった在学生からは、上級生のサポートを得ながら演奏会を支える仕事の楽しさや難しさを感じ、よい経験になったとの声が挙がった。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①卒業後支援	②教員の資質向上	③音楽文化活動	④生涯学習
⑤アウトリーチ活動	⑥情操教育	⑦同窓会活動	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。また、イベント等実施の場合はその参加人数(外部・内部)についても明記すること。)

アフターコロナで演奏会の催行が戻りつつあるが、聴衆が戻ってこないという話を多く耳にする。そのなかで、本公演はたいへん多くの来場者を迎え、終演後の歓談も長く続き、盛況のうちに終えることができた。声楽家で、長く教員養成にも携わってこられた池田特命教授の退任記念演奏もあって、一般来場者のWeb事前申込みの時点では満席(400名)となり、本学部の取り組みを社会に広くアピールすることができた。当日来場者数は200名、学園関係者10名、在学生40名(運営スタッフ学生を除く)であった。

演奏会への感想は、音楽を継続する姿に感銘を受けたこと、卒業生と教員の共演に刺激を受けたこと、出演した卒業生からは引き続き研鑽を積みその成果を発表する場の継続を望む声があった。今後とも卒業生と教員が共に作る演奏会を継続し、音楽を愛好する聴衆を幅広く育む機会を提供したい。

今後、次回の演奏会に向けて卒業生の希望者の選択、教員演奏の充実化など、これまでの課題、反省を踏まえて、企画運営やプログラムを考えたい。昨今の土曜日、日曜日のホールの確保は特に難しく、また教師の仕事を持って出演する卒業生に合った開催時期を決めることも課題である。在学生との共演の場をつくることも含め、内容の充実したものとなるよう取り組んでいきたい。